

第89号

令和3年2月15日

発行/更生保護法人

しらふじ

発行責任者/大野美雄

編集責任者/松本英史

コロナ禍 温かい贈り物相次ぐ

～利用者に Xmas プレゼント～



松江地区更生保護女性会からクリスマスプレゼントを手渡される利用者

お米や野菜、食品など支援続く

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、東京圏域や関西圏域では再び、緊急事態が宣言されるなど深刻な状況が続いています。「しらふじ」のある松江市では感染者数はそう多くはないものの、東京や関西との往来を控えるようにするなど、暮らしへの影響が出ています。そんな中、「しらふじ」を応援しようと、住民の皆さんから温かい贈り物が相次いでいます。松江地区更生保護女性会からは、利用者にクリスマスプレゼントが届きました。島根県立松江工業高校からは、卒業生の実習服が……。ほかにもお米や野菜、寄付金などたくさんの善意が寄せられ、未知のウイルスの感染拡大で不安な気持ちになりがちですが、多くの皆さんの温かい気持ちに接し、励まされました。

松江地区更生保護女性会は、んな中、会長の青木薫代さん利用者のために毎月1回のコーラから「利用者の皆さんにクリスマスジュヤ、お月見の会、バザー、マスクプレゼントを渡したい」と、倉庫の整理などの奉仕作業に取り電話が……。

12月18日、集会室で、利用者一人ひとりにきれいに包装された袋が手渡され、中にはお菓子、中止になってしまいました。そ手紙、折り紙の鶴、手作りのア



プレゼントに入っていた手書きの手紙、折り紙の鶴、手作りのアクセサリ

クセサリーが入っており、利用者は驚き、喜び、そして感激。青木会長は「今年はいろいろな催しが中止になってしまい、申し訳なく思っていました。何かできることはないだろうかと常任役員で考えたところ、クリスマスプレゼントを渡したらどうだろうか、という声上がり、みんなで協力して準備しました。女性会の支部長21人が利用者の方を励ます手紙を書きました。利用者の皆さんに喜んでもらえて良かった」と話されました。利用者は手書きの手紙と折鶴を、

自室の壁に張ったりして、励みにしています。

松江工業高校卒業生からは実習服

島根県立松江工業高校の3年生からは、卒業に際し、実習時に着ていた実習服をいただきました。実習服の寄付は2017年、松江工業高校を卒業した生徒のお母さんが「しらふじ」を来訪され、息子さんが着用していた実習服の上下を持参されました。お母さんは、「しらふじ」の利用者が社会復帰のために仕

事をする際、作業着が不足している事情を知っておられました。卒業される生徒から寄贈を受けられるよう松江工業高校に依頼してはどうかと言っていたきました。そこで、依頼状を松江工業高校に出してお願いしたところ、学校で生徒さんや保護者に呼びかけていただき、2018年3月に卒業された生徒さんから、50着の寄贈を受けました。

以来、毎年、実習服を贈っていただいています。実習服はいずれも新品同様なものです。また、「作業着が役に立つらしい」との話聞いた、一般の方からも作業着が届くようになりました。「しらふじ」の利用者にと

大変役に立ちます。服には本人の名前が刺繡しゅうされていますが、この刺繡は「しらふじ」の利用者が、丁寧に外しています。



卒業生から毎年、多くの実習服をいただきます



松江工業高校の卒業生から贈られた実習服を着用する利用者

つては、社会復帰のため、松江市内の建設業や工場などで勤務する際、作業着は



利用者から



松江地区更生保護女性会の皆さんからプレゼントをいただきました。中には折り鶴6羽とふくろうのストラップ、お菓子、そして小さな封筒に手書きのメッセージが書かれていました。読んだ瞬間、何だかとても安心した気持ちになりました。

メッセージには「まだ来ない未来を心配しても何も始まらないよ。希望を捨てず前向きに挑戦し続けることが次へとつ

ながつていくよ」とのありがたいメッセージが書かれていました。出所して間がない今の自分にはとても励みになりました。

自分のことを周りは犯罪者として見ているのではないかと、という偏見もある中、自分たちを優しくしてくれる人たちがいるんだから、まだまだ捨てたもんじゃないんだ、と思うことができ、これから頑張っていくと思えました。ありがとうございました。(K・Tさん)

私たち一人ひとりに対して直筆の手紙を書いてくださっているみたいで、本当に胸がいつぱいになりました。

私みたいに過去に何度も服役を繰り返している者。何度失敗したら、気が済むんやろうと、

思われる者に対しても、優しく、

頑張ってくださいと言っていただけのこと、本当に頭が下がる思いです。

今後、いつになっても、どこにいても、今の気持ちを決して忘れずに、精一杯頑張って生きていこうと思えます。

(K・Uさん)

大野理事長

感謝のことば

— 皆さんの善意が利用者の励みに —

「コロナ禍でいろいろな行事が中止となり、利用者は寂しい思いをしていました。思わぬクリスマスプレゼントに感激したことでしょう。ある利用者はいただいた手紙と折り鶴を部屋の壁に貼って、毎日眺めては更生の励みとしていました。

しらふじの利用者は、皆さんが真剣に勉強された大切な実習服を身にまとい、感謝しながら毎日仕事に出ています。この善行を通して、前非を悔い、一生懸命に更生に励んでいる人たちがいることを知っていただければ、幸いです。

母の慈愛は海より深いとも言われます。更生を願う松江更女の皆さんの思いは、きっと心に響いていることでしょう。ありがとうございます。ありがとうございました。

松江工業高校の生徒の皆さん、毎年たくさんの実習服をご寄贈いただき、本当にありがとうございます。



来所者 (敬称略)

◆濱田珠鳳さん指画の寄贈
島根県済生会江津総合病院

健康診断 5名

◆松江地区更生保護女性会 1名

◆司法修習生研修会

◆中国委員会(田中一哉)委員長視察

◆玉湯地区更生保護女性会 2名

◆松江地区更生保護女性会

朝日支部 3名

◆平田地区更生保護女性会

久多美支部 11名

◆法話の集い

弘長寺副住職 森田大裕師

◆厚生労働省

青木 出氏 伊豆丸 剛史氏

◆清野憲一 検事正視察

◆茶道教室 島田宗舟先生

◆松江地区更生保護女性会

クリスマスプレゼントの寄贈 4名

◆平田地区更生保護女性会 3名

(令和2年7月1日～令和2年12月31日)



田中一哉(中央)中国地方更生保護委員長視察

寄付金 (敬称略受付順)

◆松江地区更生保護女性会雑賀支部

◆江津地区更生保護女性会

◆宮下淳子

◆玉湯地区更生保護女性会

◆吉田トキ江

◆真誠興業 須田 誠

◆城北地区保護司会

◆松江地区更生保護女性会白潟支部

◆東出雲地区更生保護女性会

◆浜田地区更生保護女性会浜田支部

◆松江湖城ライオンズクラブ

◆出雲地区更生保護女性会

◆鹿島地区更生保護女性会

◆松江地区更生保護女性会朝日支部

◆杉田雅弘

◆常教寺 坂本教暎

◆宍道地区更生保護女性会

◆桐岳寺

◆平田地区更生保護女性会

◆平田地区更生保護女性会平田支部

(令和2年7月1日～令和2年12月31日)

◆河上摩耶/作業着

◆濱田珠鳳/指画「嘉来三秋」

◆米原 浩/布団等

◆江津地区更生保護女性会/衣類

◆川上雅文/米

◆スクラム工業/お菓子

◆野津雅史/野菜

◆山本寿子/食品

◆吉岡登美男/衣類

◆小原研之/食品

◆北野博幸/バリカン

◆佐々木滋子/衣類

◆矢野雅子/衣類等

◆アセス株式会社代表取締役会長

◆邑智地区更生保護女性会

◆中村弘恵/衣類・洗剤

◆恩田祥雄/米・ミカン

◆金森惣司/作業服

◆橋由美子/衣類

◆菅野喜隆/自転車

◆西尾信樹/衣類

◆松江湖城ライオンズクラブ

◆川本支部/米等

◆松本晴男/缶詰

◆橋本道子/食品

◆富岡芳史/米

◆鹿島地区更生保護女性会/支援物資

◆平田地区更生保護女性会

◆久多美支部/支援物資

◆桐岳寺/生活用品

◆更生保護施設等支援協議会

◆山本寿子/お菓子・法隆寺陶板

◆チヨコレート

◆飯石地区更生保護女性会/米

◆楠 規子/衣類

◆島根県更生保護女性連盟/愛の図書

◆北原敦子/米

◆LCC(株)代表取締役

◆坂本裕太/コーヒー等

◆出雲地区保護司会/支援物資

(令和2年7月1日～令和2年12月31日)



出雲地区保護司会

しらふじ友の会 (敬称略)

賛助会員

◆上田一利

◆橋本道子

◆藤田教造

◆岩崎圭子

◆田中智津子

◆神庭恭子

◆森田裕光

◆野田律子

◆土井一顕

◆米原伸夫

- ◆落合美恵子 ◆安達盛二
◆坂本光弘 ◆廣江友江
◆村上充峰 ◆永田典子
◆大野徹雄 ◆浜田地区
◆佐々木幸美 ◆更生保護女性会
◆西原倍子 ◆浜田支部
◆株式会社マサ ◆入江早苗
◆コーポレーション ◆井上大昂
◆永原秀治 ◆安田章夫
◆中路秀夫 ◆古藤美紀
◆後藤 勇 ◆(有)足立塗装
◆黒田西原 ◆鶴鶴 治
◆なごやか会 ◆細田淳子

【普通会員】

- ◆生田昌子 ◆佐野孝山
◆近藤佳郎 ◆野津イマ子
◆澄田千歳 ◆有限会社
◆熊澤好弘 ◆高浜印刷
◆勝部治良 ◆佐藤良元
◆金子卓雄 ◆岡 賢治
◆藤島義信 ◆宗淵寺
◆十楽寺 ◆大谷民子
◆伊藤皓元 ◆山崎清晃
◆安養寺 ◆高木早苗
◆大野道源 ◆島根県遊技業
◆福庭恒子 ◆共同組合
◆大野志保 ◆宝林寺
◆金山節子 ◆株式会社千茶荘
◆高橋英範 ◆井原美里
◆窪田幸正 ◆陶山和實

【特別会員】

- ◆伊原昭一 ◆井谷耕造
◆浪花秀明 ◆邑智地区
◆浄心寺 ◆保護司会
◆田中信道 ◆石川正伸
◆薬師寺 ◆吉長義親
◆全龍寺 ◆神光寺
◆観知寺 ◆宗教法人福正寺
◆糸賀太道 ◆青木壯文
◆安養寺 ◆大野美雄
◆村上正光 ◆松原紀子
◆恩田祥雄 ◆安栖院家島暉等
◆龍雲寺 ◆株式会社
◆西尾清文 ◆庭の川島

【法人会員】

- ◆松江地区 ◆曹洞宗島根県
◆更生保護女性会 ◆第二宗務所
◆出雲地区 ◆第三教区
◆保護司会 ◆出雲地区
◆吾郷計宜 ◆更生保護女性会
◆曹洞宗島根県 ◆松江地区
◆第二宗務所 ◆保護司会
◆合資会社 ◆株式会社博愛社
◆一文字家 ◆益田地区
◆益田地区 ◆更生保護女性会

表彰関係

(敬称略)

- 令和2年度
更生保護事業関係者の顕彰
- ◆法務大臣表彰 大野美雄
 - ◆全国更生保護法人連盟 理事長表彰 山本寿子
 - ◆島根県知事感謝状 高宮和教
 - ◆中国地方更生保護委員会 委員長感謝状 大野志保 坂本教暎
 - ◆中国地方保護司連盟会長表彰 北原則夫
 - ◆島根保護観察協会表彰 (株)庭の川島代表取締役 会長 川島 昇
 - ◆松江保護観察所長表彰 柿田健二

施設の運営にご協力をお願い

施設や事業の充実のために物品や資金が必要です。そのためご寄贈をお願いし、会員を募集しています。会員と年会費は下記のとおりです。

しらふじ友の会
会員の募集

- 賛助会員 2,000円以上
- 普通会員 5,000円以上
- 特別会員 10,000円以上
- 法人会員 20,000円以上

入金及び寄付金振込先
ゆうちょ銀行(口座番号)
01450-1-30366
加入者名
更生保護法人しらふじ

詳しいことは、下記までおたずねください。
更生保護法人しらふじ 松江市奥谷町306-1
TEL 0852-21-5383 FAX 0852-67-5393
メールアドレス: shimanekouseihogokai@sage.ocn.ne.jp
H P アドレス: http://shirafuji-shimane.com

しらふじ 検索 でも検索できます。

白南天

今号からタイトルを「白南天」に変えることにしました。どうして「白南天」なのか。

話は昭和50年代にさかのぼります。殺人と死体遺棄の罪で無期を言い渡され、家族から見放された男性が、仮出所の間として今の「しらふじ」を希望します。彼には年老いた母がおり、病弱なことを知った施設職員が実家を訪ね、「生命ある形見を」と頼みます。母が無言で託したのが、庭から掘り出した「白藤」と「白南天」でした。2本の植木は「しらふじ」の入り口左側に移植され、白藤は棚を作って毎年花を咲かせ、白南天はその下で白い実を結びます。島根更生保護会や施設の名前の由来となった「しらふじ」と「白南天」は切っても切れない間柄なのです。

新型コロナウイルスが世相を一変させました。国際秩序や社会、経済、教育などあらゆる分野、家庭や一人ひとりの心のありようにも、貧富の格差は開き、弱者にしわ寄せが及ぶなど、富の拍車は止まりません。

このような世相にこそ、何色にも染まらない「白」が必要ではないのか。元の色には戻らないかもしれないが、善意を集合させて新しい色に染め上げる。そんな思いを「白南天」に込めました。

(瑛)

濱田さんが指画を寄贈 日本で唯一の指画家



寄贈を受けた指画を囲んで、
右が寄贈者の濱田珠鳳さん、左が大野理事長

全国各地の神社仏閣に作品を奉納するなど活動の幅を広げています。濱田さんは、松江刑務所の篤志面接委員を務めている関係から、貴重な作品をいただく運びとなりました。

寄贈を受けた作品（縦112センチ、横88センチ）は、たわなに実った柿の実を親子の猿が仲良く取って食べている絵柄。柿は「嘉来」とも書き、縁起の良いことが舞い込むとの意味があります。また、しらすじの利用者の多くは親子や家族との縁が薄く、猿の親子のように仲睦まじくあつてほしいとの思いにもじみます。

指を使って絵を描く指画家の濱田珠鳳さん（米子市上福原3丁目）から、縁起が良いとされる柿と猿を描いた指画の寄贈を受けました。

濱田さんは元々筆で絵を書いていましたが、中国に渡った際に唐時代から伝わる指や手のひら、細かな部分は爪先を使って描く指画と出合い、指導を受けて指画家の道へ。指画家は日本では濱田さんただ一人、本場・中国でも数人いるかどうかで、中国指画研究協会に外国人として初めて登録されました。国際展覧会に出品し数多くの賞を受賞、文化教室講師や講演会をこなすほか、伊勢神宮など全

全身全霊を込めて描きました。利用者だけでなく、ご覧になる多くの方に指画からパワーをもらっていたきたい」と笑顔で話されました。これに対し、寄贈を受けた大野美雄理事長は「柿と無心に遊ぶ子猿を、やさしく見守る親猿が描かれています。しらすじの利用者の多くは、幼少期に親の愛情を知らずに育っています。この絵が更生の一助になることを願ってやみません。ありがとうございます」と謝意を述べました。

法話の集い

利用者の声

人はどうしてもめ事を起こすのか。それは売り言葉に買い言葉のように、どちらも同じ目線で言い争うからで、相手が怒っているときは自分にも悪いところがあるのではないか、決して相手と同じ目線で言い返してはならないということを法話で学びました。そして体験した座禅では、何か心が落ち着き、和やかな気持ちになりました。今回の法話を私の今後の人生に役立てたいと思います。

怒りを相手にぶつけるのではなく、自分の至らなさに目を向けることの大切さを教わりました。罪を犯したときの私は、そういう考えができなかったから、欠けていたからだと思いました。怒りに限らず、そうした考えを抑えることはなかなか難しいですが、いったん立ち止まり、謙虚な気持ちでいようと思いました。

また、食事についても、その食事にどれほどの手間がかかっているかを考えなさいとも教えられました。怒りの対処と同じように、自分のために注がれた苦労や思いに自分がどう応えるのかを考えるようになりたいと思います。

講話は、知っているのと知らないのでは何かあった際の気の持ちようが違う気がします。頭では理解できても実践することがあまりできていない私には、法話を聞いてよ

かったと改めて感じました。

これまでは目先の金銭や欲にとらわれて生き、手段よりも結果を重視する日々でしたが、今後は法を犯すことなく、また法話の内容を少しでも生かしていきたいと考えました。

（M・Kさん）



法話の集い

一元利用者からの便り

布団などを支援してもらい、ありがとうございます。今は骨折して休業中ですが、仕事先の皆さんに温かく対応してもらい造船の仕事を復帰する予定です。

本当にたくさんの支援と心配をしてくださき感謝しています。これからも頑張ります。

（K・Oさん）

しらすじでの3カ月半は自分にとつていい勉強になりました。自分が見失っていたものを施設長、職員の皆さんに引き出してもらいました。思えばいろいろなことがありましたが、今後はS社を出発点として新たな更生の道を歩んでいきます。

私は、このしらすじに来て本当に良かったと思っています。時々、顔を見せに来ます。自分にとってしらすじは故郷ですから。

（M・Yさん）